



広 報 資 料

問い合わせ先

第一管区海上保安本部

海洋情報部 監理課長 永田 剛

0134-27-0118 (内線2510)

海水情報センターの開所について

第一管区海上保安本部では、オホーツク海など海水が発生する海域を航行する船舶の海難事故を防止するため、「海水情報センター」(所長：第一管区海上保安本部次長 星澄男)を12月21日(水)に開所します。

航空機や巡視船及び事務所による海水観測のほか、協力機関から情報を収集し、航行警報及び海水速報等で海水の分布状況等の情報提供を行います。(別紙【資料2】参照)

1. 海水情報の収集

当本部が行う海水観測情報のほか、協力機関から情報を収集します。

(1) 当本部の海水観測情報(別紙【資料3】参照)

イ 航空機・巡視船艇による目視観測を随時実施

ロ 事務所(稚内、紋別、根室、網走、羅臼、花咲)で目視観測を毎日実施

(2) 協力機関の海水観測情報

イ 気象庁、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び大学が解析した人工衛星画像

ロ 陸上施設や船舶による目視観測

2. 海水情報の提供

海水観測情報を一元的に集約、分析・整理し、海水の分布状況等を海洋速報として提供します。なお、航行安全上緊急性の高い海水の情報については、航行船舶に対し航行警報として無線放送及びインターネットを通じて、このほかAIS(船舶自動識別装置)及び海の安全情報により随時提供します。

(1) 海水速報の内容

イ 北緯46度(サハリン南端)付近に南下するまで、海水の位置を文字情報で提供(別紙【資料4 図1】参照)

ロ 北緯46度付近に初めて達した日以降、海水の位置を分布図で毎日提供(別紙【資料4 図2、図3】参照)

(2) 海水速報の提供・入手方法

イ 海水情報センターホームページ

URL <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>

ロ ファクシミリサービス(ポーリング受信方式)

電話番号：0134-32-9301

ポーリング機能付きファクシミリで上記電話番号にコールすると海水速報を受信することが可能(通話料は利用者の負担)

3 . 近年の海氷海難の件数（別紙【資料5】参照）

（1）海氷に起因する海難は平成24年2月以降、過去4年間発生していません。

（2）海氷に起因する海難であって死亡又は行方不明を伴うものは、平成12年1月以降、過去16年間発生していません。

（3）昭和30年から現在まで海氷に起因する海難ののべ隻数は359隻、死亡・行方不明者は52名です。

海水情報センター設置の経緯

択捉島 単冠湾(ひとかっぱわん)の漁船集団海難を契機に設置

【海難概要】

発生日: 昭和45年3月17日
 概要: 択捉島南方において操業中の沖合底引漁船19隻は発達した低気圧による大時化を避けるため、択捉島単冠湾に錨泊した。
 内1隻は強風のため走錨圧流され陸岸に乗り上げ大破。
 この年の流氷は例年になく優勢で、1月中旬に太平洋側へ流出が始まり、水温が低かったため流氷は溶けずに南下し拡張していた。
 台湾南方海上で発生した低気圧と九州北岸の別の低気圧が日本列島を挟む形でそれぞれ発達し、3月17日にはオホーツク海で1つになりゆっくり東北東に進んだ。
 太平洋に南下していた流氷群は低気圧の接近に伴う強い東南東の風により択捉島南岸に吹き寄せられ、大時化の中で圧着集積して3~4ノットの異常な速度で単冠湾に流れ込んだ。
 錨泊中の漁船11隻は船体損傷を受けながらも自力で流氷群の外へ脱出したが残り漁船7隻は、流氷による損傷及び強風による船上への流氷の打ち込み等により転覆2隻、沈没3隻、2隻は曳航救助された。
 大破した漁船を含め8隻の漁船乗組員114名の内30名が死亡または行方不明となった。



流氷観測通報体制の強化

北方水域における海水の分布及び動向を迅速、かつ、的確に把握のうえこれを周知し、もって当該水域における海難の防止に資する

昭和45年11月 **海水(流氷)情報センター設置**

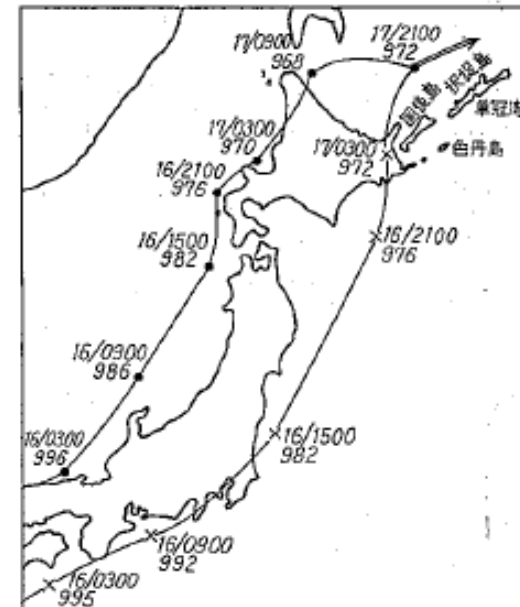
平成19年12月、「流氷情報センター」を「海水情報センター」に改名

【海難発生場所】



【低気圧経路図】

S45.3.16~18



海水情報センターの業務(情報収集と情報提供)



第一管区海上保安本部

航空機による観測 巡視船艇による観測



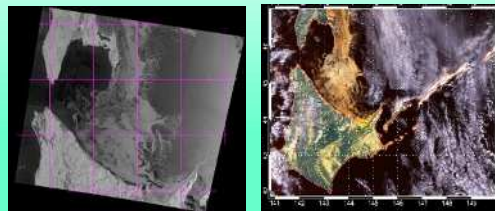
陸上(事務所)からの定点観測

気象庁

航空機による観測 衛星ひまわりの解析画像

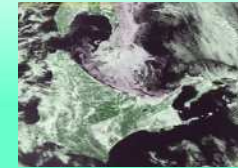


宇宙航空研究開発機構
衛星だいち2号(ALOS-2)の画像
衛星TERRA / AQUAの画像 等



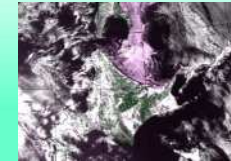
東海大学情報技術センター

衛星Suomi NPPの画像 等



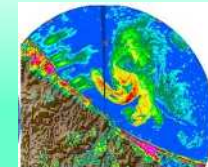
北見工業大学

衛星NOAAの画像



北海道大学

ドップラーレーダー画像(紋別)



船舶からの通報

その他

林-ツクワ- (紋別)



お-ろら (網走)



北方館 (納沙布岬)



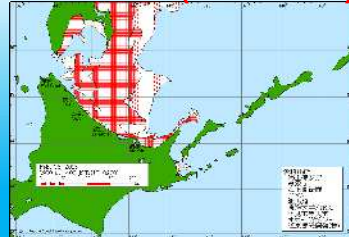
海水情報センター

- ・海水観測資料の収集
- ・収集した観測情報の分析・整理
- ・航行警報発出、海水速報作成
- ・海水観測に関する関係機関との連絡調整

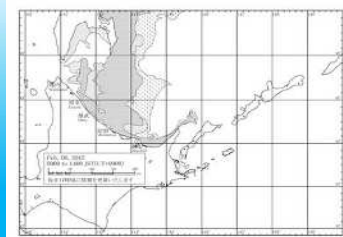
海水情報の提供

- ・航行警報
- ・AIS(船舶自動識別装置)
- ・海の安全情報
- ・ホームページ
- ・ファクシミリ

海水速報(ホームページ)



海水速報(ファクシミリ)



海水情報センター設置期間中、毎日17時頃に更新

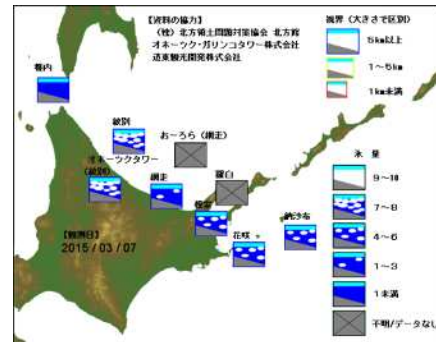
第一管区が行う海水観測について

1 事務所による海水観測

- (1) 実施場所：稚内、紋別、根室、網走、羅臼、花咲
- (2) 観測時期：12月～4月
- (3) 観測概要：事務所から海水目視観測を原則毎日正午に実施



イメージ写真(紋別港沖の海水)



観測結果は沿岸観測状況として毎日ホームページに掲載

2 航空機による海水観測

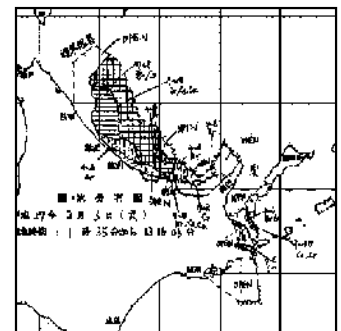
- (1) 観測海域：オホーツク海南西海域など
- (2) 観測時期：12月～4月
- (3) 観測概要：海氷域を飛行する航空機による目視観測を随時実施
千歳航空基地所属固定翼機に当本部職員が同乗し、目視観測(スケッチ)及び写真撮影を随時実施



海水観測中の航空機



観測中の職員



目視観測(スケッチ)図

3 巡視船艇による海水観測

- (1) 観測海域：オホーツク海南西海域など
- (2) 観測時期：1月～4月
- (3) 観測概要：海氷域を航行する巡視船艇による目視観測を随時実施
巡視船そうやに当本部職員が同乗し、搭載航空機による目視観測(スケッチ)及び写真撮影、流向流速計による流況調査、水温塩分計による調査を2月頃に実施



海水観測中の巡視船そうや



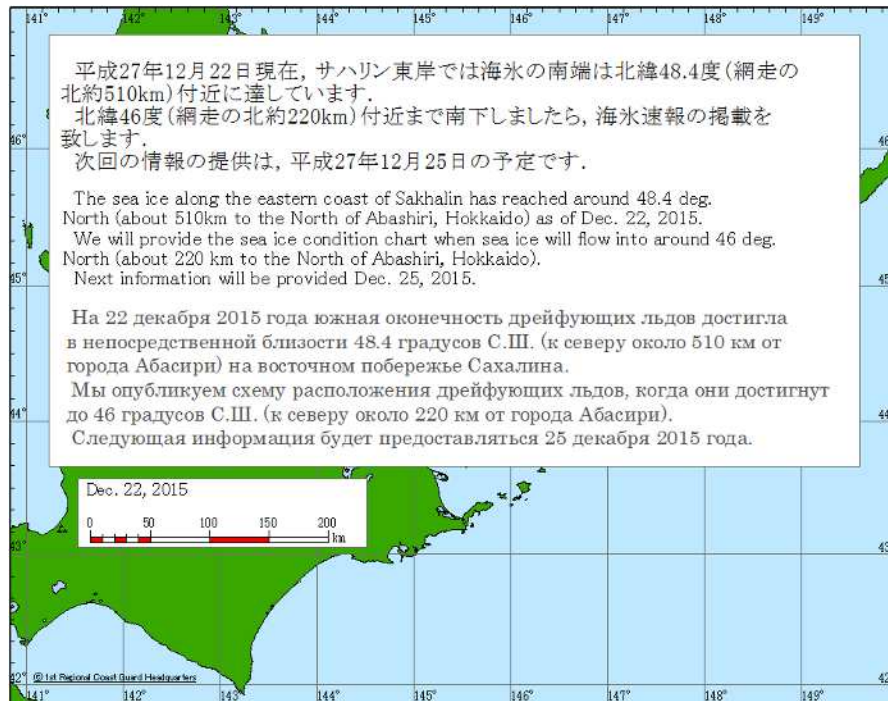
搭載航空機による海水観測



流向流速計による調査

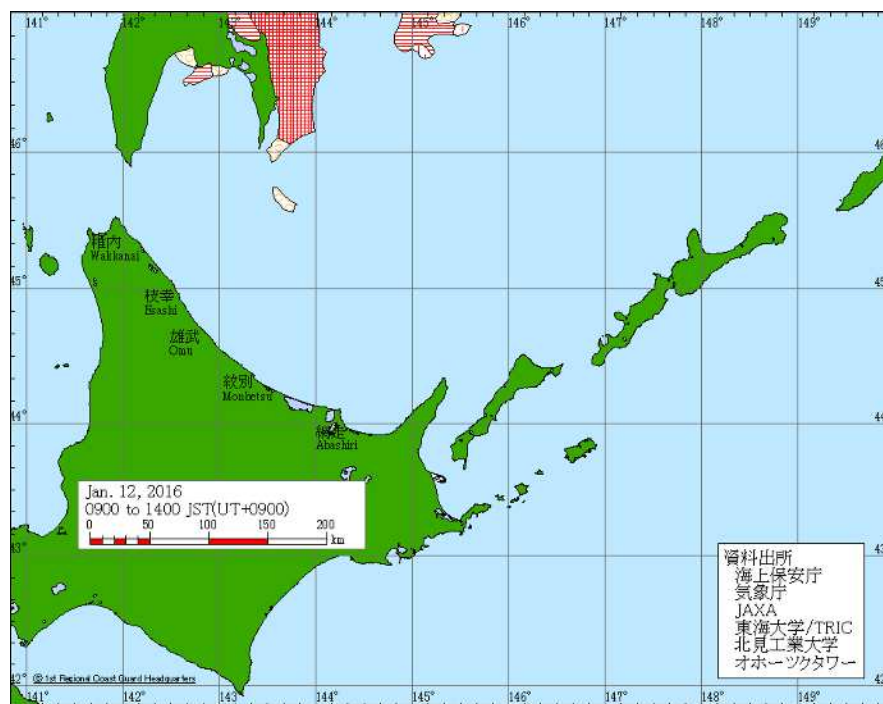
【図1】 海水速報(文字情報による提供)

海水が北緯46度付近に達するまでの間(例:平成27年12月22日)
 (情報の更新は、週2回火・金の午後5時頃になります。)

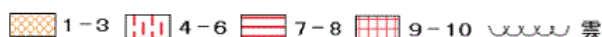


【図2】 海水速報(分布図による提供)

海水が北緯46度付近に初めて達した日以降(例:平成28年1月12日)
 (情報の更新は、毎日午後5時頃になります。)

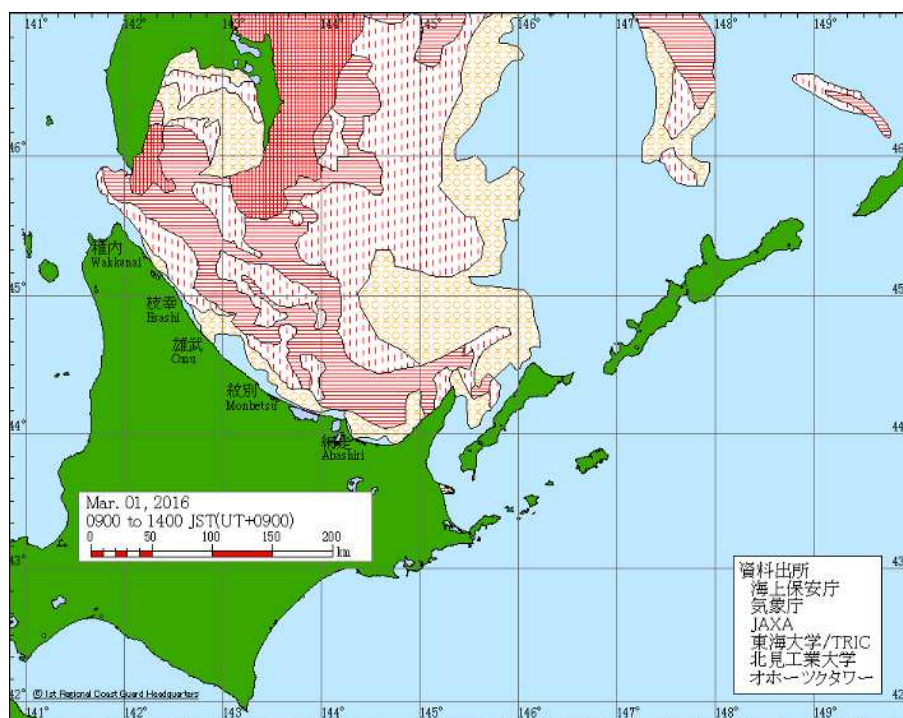


凡例



【図3】 海水速報(分布図による提供)

昨シーズンにおいて海水がオホーツク海で最も広がった日(例:平成28年3月1日)



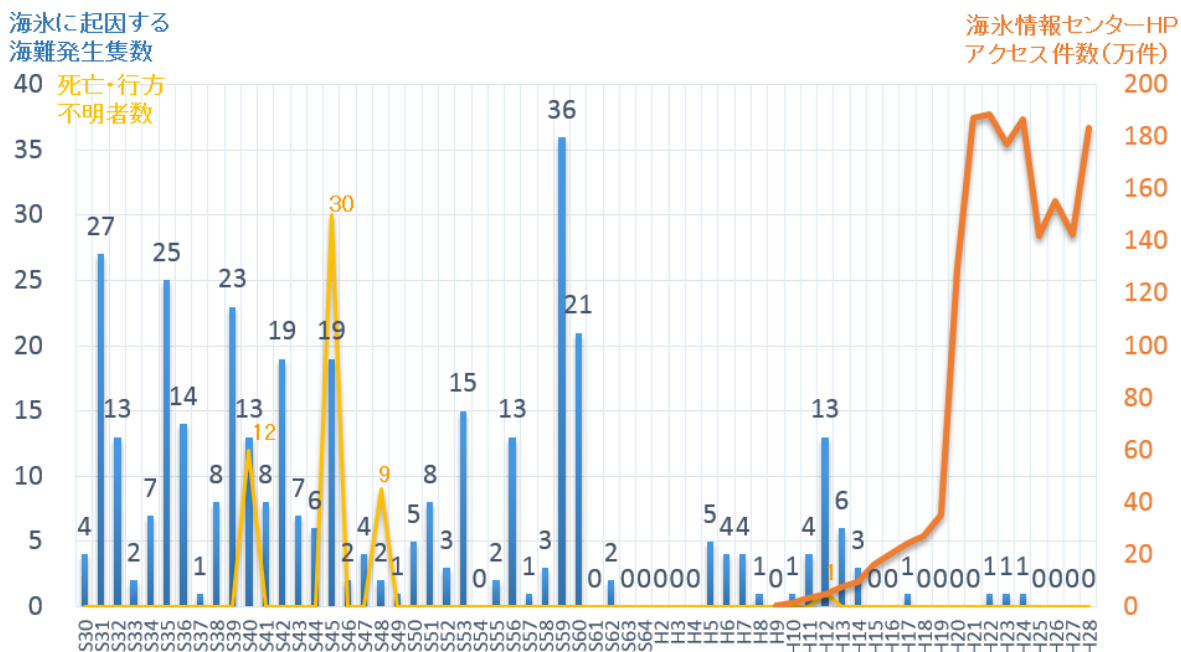
凡例

1-3 4-6 7-8 9-10 雲

昭和30年(1955年)以降の海氷に起因する海難発生状況

1. 海氷に起因する海難発生件数の推移

(参考情報として、海氷情報センターホームページアクセス件数を重畳)

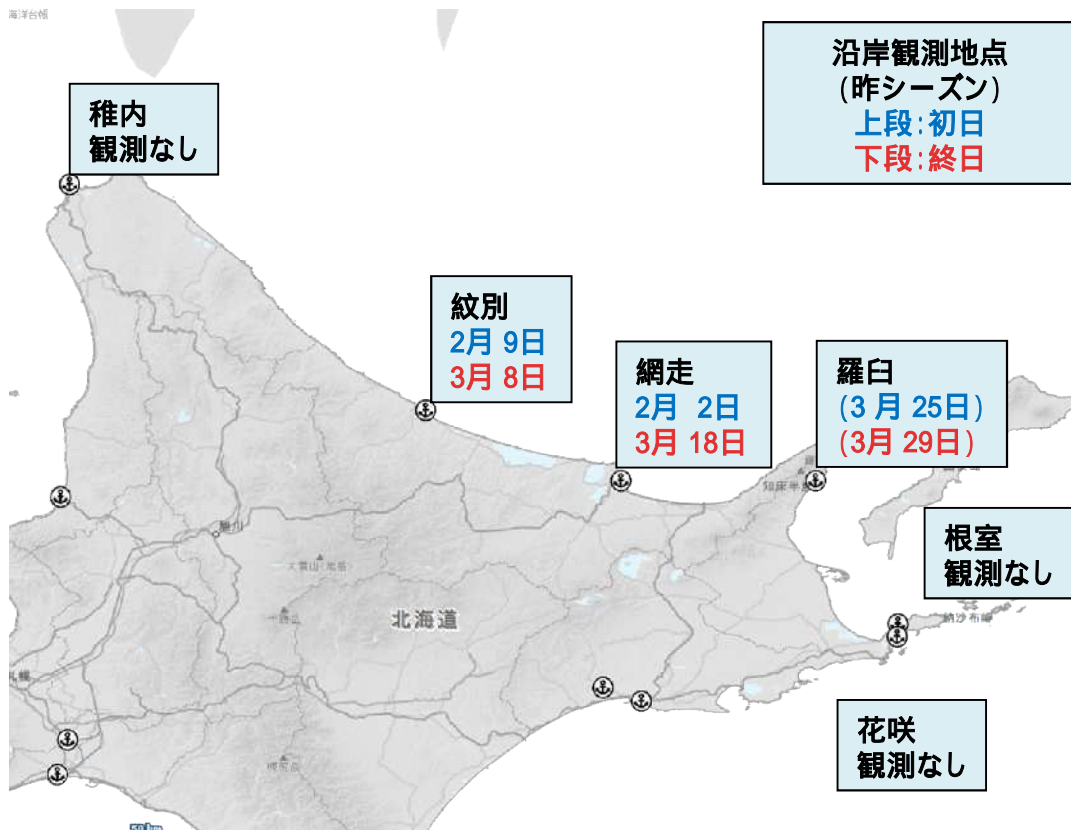


2. 海氷に起因する近年の主な海難

| 年月 | 発生場所 | 海難の概要 |
|------------------------|-----------------------|---|
| 平成12年 (2000年) 1月 | 枝幸沖合 | 枝幸沖合いを航行中のロシア貨物船7隻が、流氷に閉ざされ航行不能となった。同7隻は、巡視船の砕氷誘導により救助され、船体、人命に異常はなかった。 |
| 平成12年 (2000年) 3月 | 歯舞漁港付近 | 歯舞漁港に寄港中の漁船(12トン、6名乗組み)が、流氷帯を避けながら航行している際、暗礁に乗揚げた。その際に前部甲板で見張りをしていた甲板員1名が海中転落し、翌日遺体で発見された。乗揚げた船体は解体撤去された。 |
| 平成22年 (2010年) 1月 | 国後島案渡移矢岬 西北西方約10海里 | 根室海峡周辺の海水域において操業中の刺し網漁船(19トン、8名乗組み)が、海氷との接触で船底に生じた破口から機関室に浸水した。同漁船は付近で操業中の僚船及び巡視船の支援を受けて排水作業を行いつつ自力帰港した。 |
| 平成23年 (2011年) 2月 | 羅臼港沖 | 羅臼沖において帰港中の刺し網漁船(19トン、6名乗組み)が海氷に閉じ込められ航行不能となった。僚船からの通報を受けた巡視船が、漁船の自力航行が可能となるように水路を開きながら安全な水域まで先導し救助を行った。 |
| 平成24年 (2012年) 2月 | 宗谷岬東方 約12海里 | 宗谷岬沖を航行していた外国船籍貨物船(48トン、7名乗組み)が、点在する海氷の塊を避けきれずにその内の1つと衝突。衝突箇所に亀裂が生じ浸水したが、乗組員が排水作業を行いつつ自力で稚内港に入港した。 |

1. 昨シーズンの流氷状況

【参考資料】



| | 流 氷 | | | | | |
|-----|--------|---------|---------|--------|---------|--------|
| | 初日 | | | 終日 | | |
| | 平年値 | 昨シーズン | | 平年値 | 昨シーズン | |
| | | (平年比) | | | (平年比) | |
| 稚内 | 2月14日 | 観測なし | — | 3月9日 | 観測なし | — |
| 紋別 | 1月28日 | 2月9日 | 12日遅い | 3月28日 | 3月8日 | 20日早い |
| 網走 | 1月24日 | 2月2日 | 9日遅い | 4月1日 | 3月18日 | 14日早い |
| 羅臼※ | (2月7日) | (3月25日) | (47日遅い) | (4月5日) | (3月29日) | (7日早い) |
| 根室 | 2月13日 | 観測なし | — | 3月24日 | 観測なし | — |
| 花咲 | 3月4日 | 観測なし | — | 3月20日 | 観測なし | — |

平年値：1981～2010年の30年平均

「羅臼」は2008年から土日祝日の観測を終了したため、平年値は1981～2007年の27年間の平均値となっている。昨シーズンの値は、平日のみの観測によるものである。

用語について

海 氷：海氷が凍結してできている海で見られる全ての氷

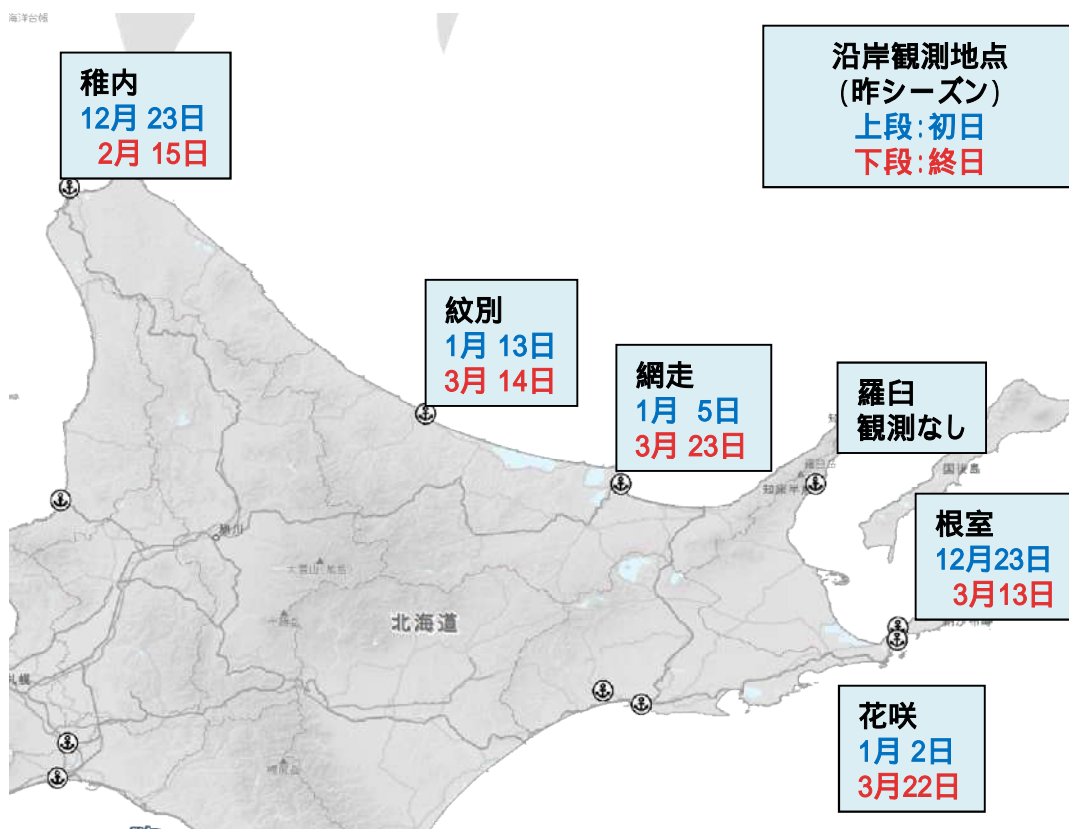
流 氷：流れている氷

港内結氷：港内で海水が凍ること

流氷初日(りゅうひょうしょにち)：視界内の海面に初めて流氷が見えた日

流氷終日(りゅうひょうしゅうじつ)：視界内の海面で流氷が見えた最後の日

2. 昨シーズンの港内結氷状況



| | 港内結氷 | | | | | |
|-----|---------|--------|-------|---------|-------|-------|
| | 初日 | | | 終日 | | |
| | 平年値 | 昨シーズン | | 平年値 | 昨シーズン | |
| | | (平年比) | | | (平年比) | |
| 稚内 | 1月9日 | 12月23日 | 17日早い | 2月26日 | 2月15日 | 11日早い |
| 紋別 | 1月6日 | 1月13日 | 7日遅い | 3月23日 | 3月14日 | 9日早い |
| 網走 | 12月28日 | 1月5日 | 8日遅い | 3月23日 | 3月23日 | 同日 |
| 羅臼※ | (1月30日) | 観測なし | — | (3月11日) | 観測なし | — |
| 根室 | 12月21日 | 12月23日 | 2日遅い | 3月23日 | 3月13日 | 10日早い |
| 花咲 | 1月7日 | 1月2日 | 5日早い | 3月16日 | 3月22日 | 6日遅い |

平年値：1981～2010年の30年平均

「羅臼」は2008年から土日祝日の観測を終了したため、平年値は1981～2007年の27年間の平均値となっている。昨シーズンの値は、平日のみの観測によるものである。

用語について

海氷：海氷が凍結してできている海で見られる全ての氷

流氷：流れている氷

港内結氷：港内で海水が凍ること

港内結氷初日(こうないけっぴょうしょにち)：港内で初めて新成氷が生じた日

港内結氷終日(こうないけっぴょうしゅうじつ)：港内で定着氷、新成氷が見られた最後の日で、特殊な場所に取り上げて残った氷塊等は考慮しない